

# NRIだより

2011年 Vol.3 | 2012年3月期 第1四半期  
2011年4月1日～2011年6月30日

野村総合研究所  
Nomura Research Institute

トップインタビュー	1
数字で見るNRI	4
セグメント別およびサービス別の概況	5
トピックス	6
株主の皆様へのアンケートより	7
会社データ	8

## トップインタビュー

Top Interview



### 嶋本 正

代表取締役社長 (CEO & COO)

**\*1 業界標準ビジネスプラットフォーム**  
企業がビジネスをおこなううえで共通  
に必要とする機能を、効率的に提供す  
るシステムサービス。事業活動をシス  
テム面で支える新しい社会インフラと  
しての役割を果たしている。

**\*2 STAR-IV**  
証券会社向け共同利用型  
バックオフィスシステム

日本のIT市場では、情報システムの「所有から利用へ」という大きな流れが拡大しています。これは従来からNRIが推進してきた**業界標準ビジネスプラットフォーム**<sup>\*1</sup>の展開にとって大きな追い風となっています。

この追い風を受け、NRIは2015年に向けた経営ビジョンである「ビジョン2015」達成に向けた施策を遂行しています。自己変革を続けながら、まずは成長軌道への回帰を目指し、今後のさらなる飛躍に向けて前進していきます。

### 2012年3月期の見通しをお聞かせください。

コンサルティング分野では東日本大震災の影響で案件が一部延期されるなど、受注状況に影響があることは否めません。一方で、グローバル展開については中国以外のアジア地域でも拠点網の拡充が検討されており、さらなる強化・拡大に向けての取り組みを進めています。

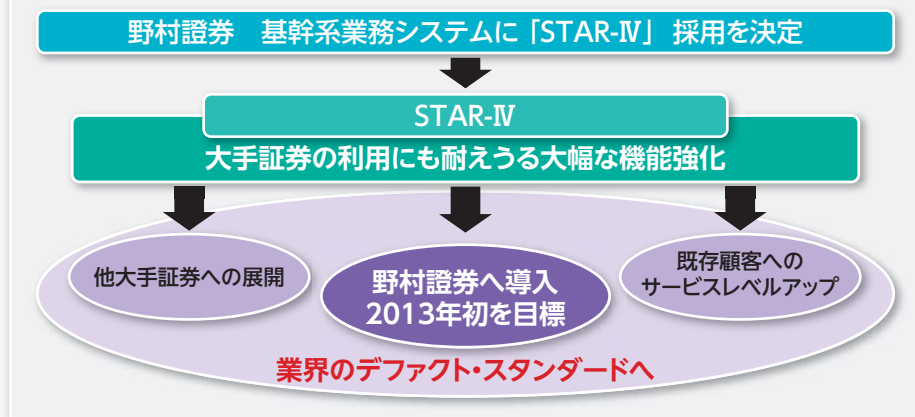
金融ITソリューション分野では、野村証券(株)への**STAR-IV**<sup>\*2</sup>導入という大規模なプロジェクトが本格化し、2013年初の導入に向けて全力を挙げて取り組んでいます。野村証券(株)への導入を完遂することで、STAR-IVは証券業のバックオフィスシステムにおけるデファクト・スタンダード化に向けてさらに大きな一歩を踏み出します。

顧客の間では、競合他社との差別化に直接結びつかない非競争領域において、標準的でコストパフォーマンスの高いITサービスを利用したい、というニーズが高まっています。NRIの提供しているSTAR-IVはまさにそのニーズに合致するものであり、他の大手証券会社からも注目されるはずで。

また、銀行業向けのインターネットバンキングシステム「Value Direct」や資産運用会社向けのバックオフィスシステム「T-STAR」など、業界標準ビジネスプラットフォームの新規開発やさらなるシェア向上に向けた機能の拡充を図っていきます。

産業ITソリューション分野では不採算案件も終息し、今後は新規顧客の獲得に向けた取り組みを改めて強化します。

## ■野村証券へのSTAR-IV導入



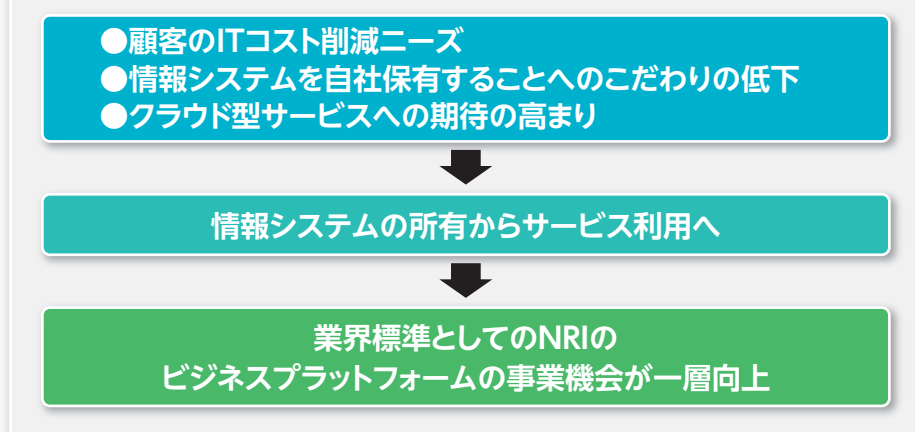
### 中長期の事業環境の見通しをどのようにお考えですか。

情報システムの「所有から利用へ」の流れが一層加速すると予想しています。これは、NRIにとって大きな追い風となります。

日本国内のIT市場は、全体としては大幅な成長を期待し難い状況ですが、顧客が望むITソリューションの形態が変わってくると見えています。企業が個別に情報システムを開発し自社資産として「所有」する形態が減っていく一方、それに代わって、ITサービスを「利用」する形態が増えていきます。

NRIが提供している業界標準ビジネスプラットフォームは、NRIが自社開発したシステムを、サービスとして数多くの顧客にご利用いただくビジネスモデルです。これはまさに「所有から利用へ」の潮流に合致するものであり、今後も既存サービスにおける顧客のさらなる拡大を図りつつ、金融分野を中心に新たな業界標準ビジネスプラットフォームの開発・提供を進めていきます。

## ■業界標準ビジネスプラットフォーム



### 今後の成長に向けて、研究開発や設備投資で注力している分野を教えてください。

研究開発や設備投資、人材の採用・育成など、中長期の成長のために必要な投資を、今後も継続的におこなっていきます。

研究開発では戦略的重点テーマを選定し、経営資源を集中的に投下していきま

### \*3 クラウド

巨大なITリソースを、インターネットを通じてサービスとして提供するコンピュータの形態。

す。具体的には、複数のクラウド\*3を使いこなす先進のハイブリッドクラウドや、膨大かつ複雑化したデータを活用する高速・大規模分散データベース、既存のIT基盤を最適化・近代化させるITモダナイゼーションなどのテーマで研究をおこなっています。

設備投資の面では、NRIが自社開発する業界標準ビジネスプラットフォーム関連の投資が増えています。また、情報システムの運用に不可欠なデータセンターを新たに東京都多摩市に建設中で、2012年度の竣工を予定しています。

NRIは中長期的に年率7%の成長を目指しており、その目標の達成のため、従業員数の5%を目安に新卒採用を継続的におこなっているほか、専門性の高い人材のキャリア採用も通年で実施しています。NRIが成長を続けていくうえで、新たにチャレンジしていく領域は大きく広がっており、人材の重要性はますます高まっています。ポテンシャルの高い人材を採用し、専門的な知識と能力を身に付けたプロフェッショナルへと育成していくことで、事業拡大に必要な人的リソースの拡充を図ります。

### 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

中長期的に年率7%の成長を達成するという目標は、「ビジョン2015」に盛り込まれた戦略を実践することで達成できると考えています。今期については、まずは成長軌道への回帰を果たすことに注力し、今後の飛躍の土台をつくってまいります。

株主還元については、配当性向30%をめどとしています。また、安定的な配当を重視しておりますが、収益を向上させて、1株当たり配当金額を増やしていきたいと考えています。

2011年12月に、NRIは東証一部上場10周年を迎えます。

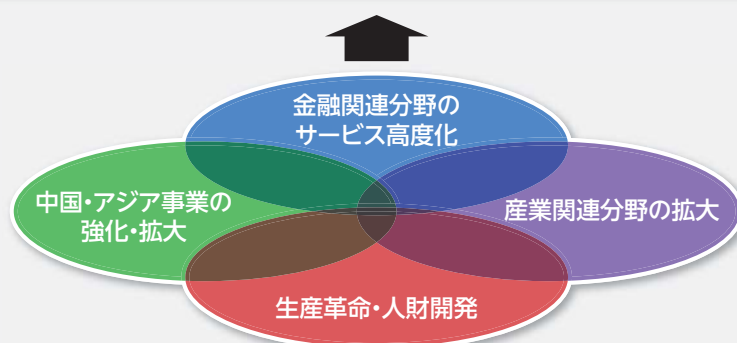
上場した時、厳しい市場で自らを律して成長するという強い決意がありました。今後も、『業界で圧倒的な存在感を持つメジャープレイヤーになる』という「ビジョン2015」の目標達成に邁進していきます。

東日本大震災という大きな困難に日本全体が直面している現在、上場時の初志や、「顧客とともに栄える」という経営理念に立ち返り、株主の皆様、お客様、そして社会全体に貢献していきたいと思えます。

## ■ビジョン2015

### 2015年の将来像

- 業界で圧倒的な存在感を持つメジャープレイヤーになる
- 直接金融向け事業に次ぐ、第2、第3の収益の柱を作る

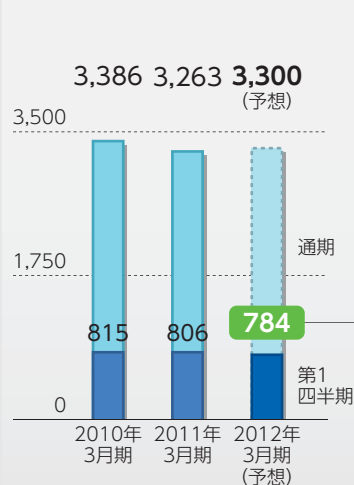


# 数字で見る NRI

NRI at a Glance

## 売上高

(単位：億円)

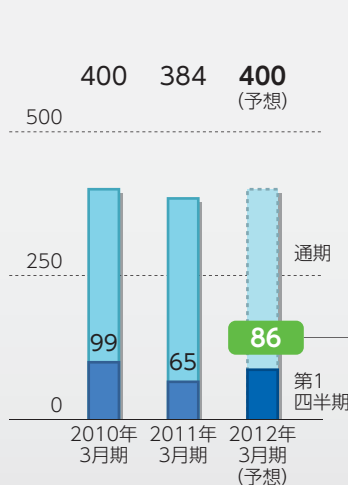


**784億円**  
前年同期比  $\Delta$ 2.7%

売上高は、金融ITソリューションおよびIT基盤サービスで減少しました。

## 営業利益

(単位：億円)

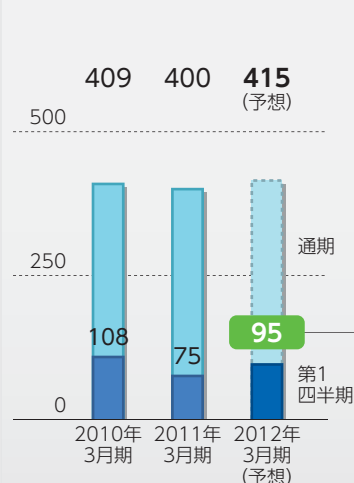


**86億円**  
前年同期比 +31.7%

証券業の主要顧客の共同利用型サービスへの移行に向けソフトウェア投資を進めたことや、新規顧客獲得を中心とした顧客基盤の拡大および収益構造の強化に向けたコストが減少したことなどで売上原価が減少した結果、営業利益は増加しました。

## 経常利益

(単位：億円)

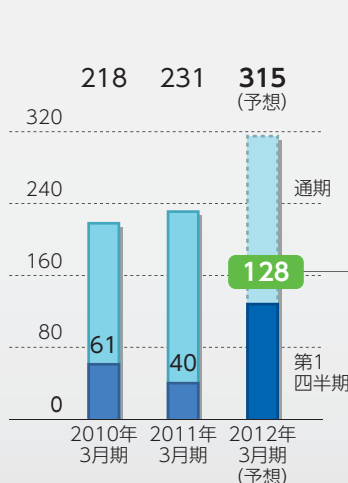


**95億円**  
前年同期比 +27.3%

受取配当金が減少したものの、持分法による投資損失が減少したことなどにより、営業外損益は前年とほぼ同じ水準となり、経常利益は増加しました。

## 四半期(当期)純利益

(単位：億円)

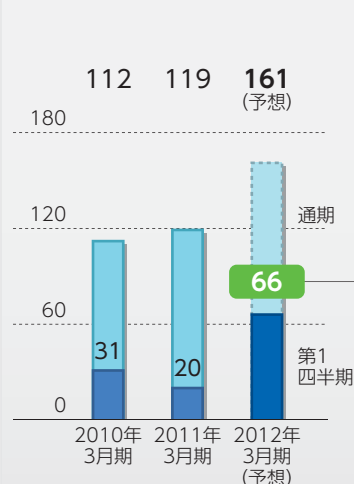


**128億円**  
前年同期比 +215.6%

関係会社株式売却益(NRIが保有していた野村土地建物(株)株式に対して株式交換により割り当てられた野村ホールディングス(株)株式の売却益)が85億円、特別配当金が30億円発生し、四半期純利益は増加しました。

## 1株当たり四半期(当期)純利益

(単位：円)



**66円**  
前年同期比 +45円

前年同期に比べ45円増加し、66円となりました。

(注) 1. 記載金額は、億円未満(1株当たり四半期(当期)純利益は円未満)を切捨てて表示しております。

2. 2012年3月期通期予想は、2011年6月17日に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益は当該予想と異なる結果となる可能性があります。

# セグメント別およびサービス別の概況

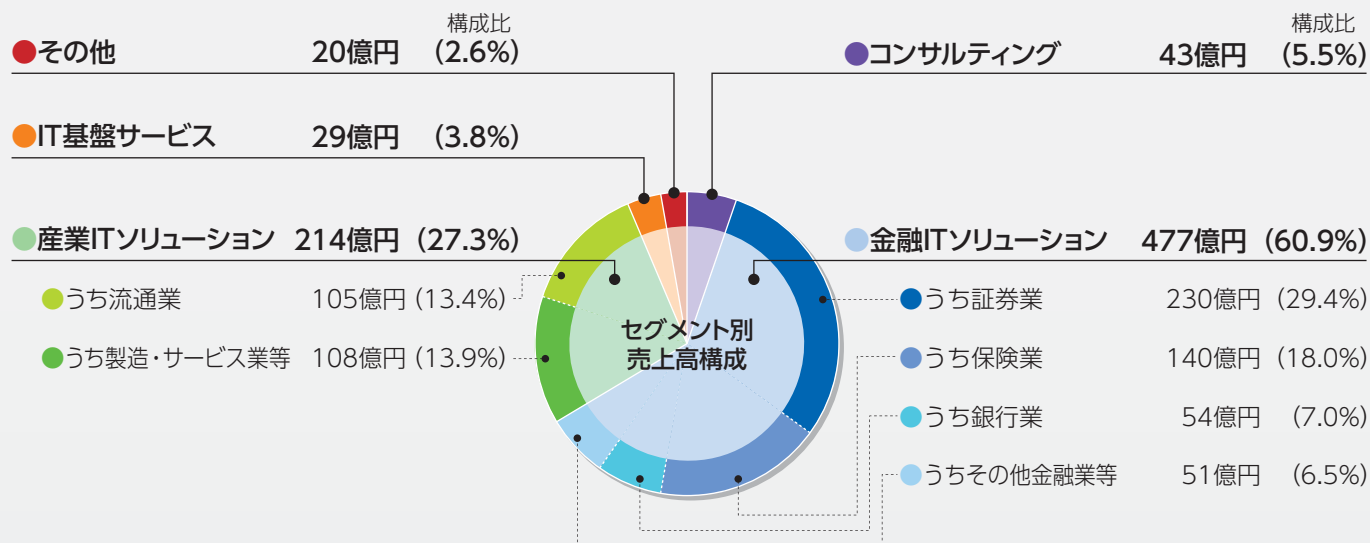
Summary by Segment and Service

2011年 Vol.3

2012年3月期 第1四半期

## セグメント別売上高

(単位：億円、%)



企業の情報システム投資に対する慎重な姿勢は変わらず、情報サービス産業にとって厳しい経営環境が続きました。

コンサルティングは、前年度後半から上向き傾向にあった業績が東日本大震災の影響を受け伸び悩んだものの、経営戦略に関するコンサルティング案件の増加もあり売上高は前年同期比13.9%増収の43億円となりました。

金融ITソリューションは、銀行業向けの開発案件や証券業の主要顧客向けの運用サービスが減少し、売上高は前年同期比

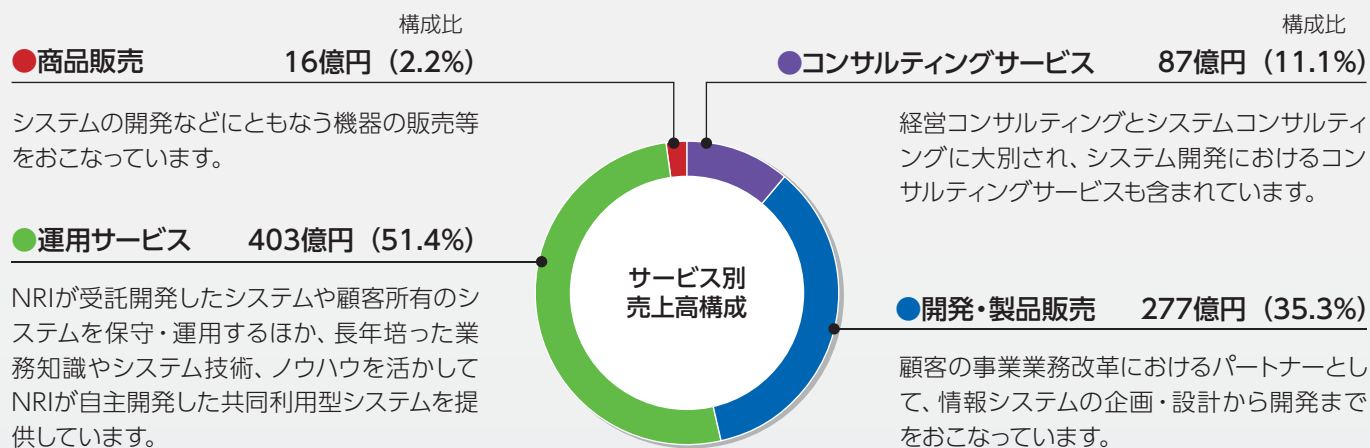
3.9%減収の477億円となりました。

産業ITソリューションは、流通業向けの開発案件が減少しましたが、製造・サービス業向けの開発案件が増加し、売上高は前年同期比1.4%増収の214億円となりました。

IT基盤サービスは、証券業の主要顧客向けの運用サービスが減少し、売上高は前年同期比23.1%減収の29億円となりました。

## サービス別売上高

(単位：億円、%)



システムの開発などにもなう機器の販売等をおこなっています。

NRIが受託開発したシステムや顧客所有のシステムを保守・運用するほか、長年培った業務知識やシステム技術、ノウハウを活かしてNRIが自主開発した共同利用型システムを提供しています。

コンサルティングサービスでは、金融業向けのシステムコンサルティング案件や経営コンサルティング案件が増加するなどして、前年同期比33.6%増収の87億円となりました。

開発・製品販売では、保険業向けが増加した一方、銀行業向けが減少し、前年同期比7.2%減収の277億円となりました。

経営コンサルティングとシステムコンサルティングに大別され、システム開発におけるコンサルティングサービスも含まれています。

顧客の事業業務改革におけるパートナーとして、情報システムの企画・設計から開発までをおこなっています。

運用サービスでは、証券業の主要顧客向けが減少し、前年同期比4.5%減収の403億円となりました。

商品販売では、開発にもなう商品販売案件が減少し、前年同期比15.0%減収の16億円となりました。

(注) 記載金額は、億円未満を切捨てて表示しております。

## NRIの事業を支えるデータセンター

NRIは顧客の重要な情報システムをお預かりするために、最新鋭のデータセンターへの投資を積極的におこない、災害や情報漏えい等に備えて万全の対策をおこなっています。

### 最新鋭の設備により、東日本大震災の際にも安定的に稼働

現在、NRIでは国内に4カ所のデータセンターを保有しています。

その中で最も新しいものは2007年に完成した横浜第二データセンターで、大規模な地震発生に備え、最新の免震・制震装置を装備しています。また、データセンターの国際的な評価基準に対応した多重化された電源空調設備に加え、高い環境性能を有しており、外資系企業からも高い評価を得ています。

例えば、電力や通信回線も必ず複数の配線を確認しています。停電などにより全ての電力供給がストップした場合、瞬時に大容量の蓄電池が作動します。また、蓄電池のバッテリーが切れてしまう前に、大型の発電装置が稼働して電力供給をまかさないです。

こうした対策により、東日本大震災においてもNRIのデータセンターと情報システムは安定的な稼働を継続することができました。

情報セキュリティ対策については、3DホログラフィックスキャナーやX線検査装置を活用し、顧客の機密情報の不正な持ち出しに備えています。また、ネットワークへのアクセス管理や取引先を含めた情報管理なども厳格におこなっています。

### 需要の高まりを受け、多摩に新データセンターを設立

拡大する運用アウトソーシング事業の拠点として、東京都多摩市に2012年の完成を目指して新たなデータセンターを建設しています。災害対策などの安全性・信頼性はもちろん、環境にも配慮した世界最先端のデータセンターとなる予定です。



横浜第二データセンター



停電時でもシステムを稼働させるための電源設備



免震構造により、地震の被害を防止



データセンターでの入退館時や搬入出時の物品検査には、3DホログラフィックスキャナーやX線検査装置を活用



多摩市に2012年竣工予定の新データセンター

### <おもな特徴>

#### ■安全性

- ・最先端の免震・制震技術を導入
- ・生体認証装置などのセキュリティ装置を導入

#### ■環境性

- ・自然換気など自然エネルギーを最大限に利用
- ・局所空調など高いエネルギー効率の設備機器
- ・グリーンITを活用し、環境負荷を軽減

#### ■信頼性

- ・多重化された拡張性の高い電源システム
- ・機器を冷却する気流環境を最適化する空調設備

## NRIグループにおける節電対策の取り組みについて

～稼働フロア管理と働き方改革による「スマートパワースタイル」を実施～

NRIは、今夏の電力供給不足を受けた電力消費の抑制と、安全・確実なサービス提供の両立を継続させることを目指した「スマートパワースタイル」運動を展開しています。

具体的には、業務・ビルごとに節電効率を勘案したきめ細かい「稼働フロア管理」をおこなうとともに、ノートパソコンの導入拡大やフリーアドレス(社員の固定席を設けないオフィスの形態)の適用拡大など「働き方の改革」を進め、政府目標(15%)を上回る節電を実施しています。

### 「スマートパワースタイル」の考え方

1. 企業に求められている節電を、グループの総力を挙げて実施
2. 稼働フロア管理と働き方の改革により、確実に効果の大きな節電を継続実施
3. 「スマートパワースタイル」をNRI流の省エネ型ワークスタイルとして積極的に公開

### 執務エリアにおける「スマートパワースタイル」の具体的な内容

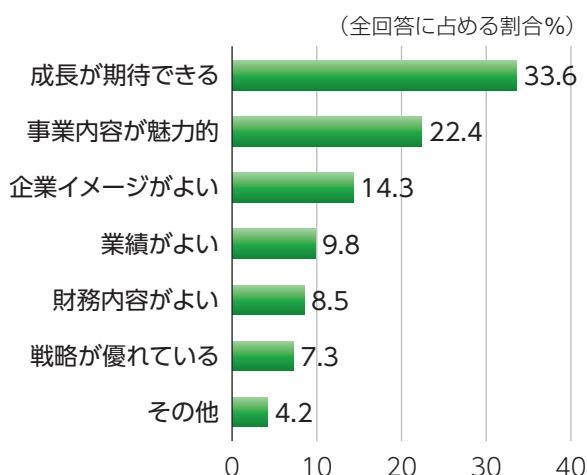
施策	実施事項
使用電力自体の削減	・照度管理の徹底、照明の間引き・LED照明の導入 ・エリア単位での室温管理の徹底 ・クールビズをさらに緩和した“節電ビズ”の推進
ピーク使用電力の削減	・フロア閉鎖・集約により空調稼働スペースを最大で25%削減 ・空調時間の見直しや間欠運転 ・計画的な時差出勤・時短勤務等、連続休暇・半日休暇の奨励 ・弾力的な就業の実現(フリーアドレス、テレワーク環境の推進等)
使用電力管理体制の強化	・使用電力モニタリングの強化 ・執務エリアごとに電力需要源(空調、照明等)の管理を強化
中長期的な消費電力削減への着手	・省電力・節電対策を意識した施設計画 ・自社サーバ等の集約・分散配置 ・照明・モニタ等への省電力機器導入の拡大 ・自然エネルギー等の積極活用

## 株主の皆様へのアンケートより (有効回答数: 2,171)

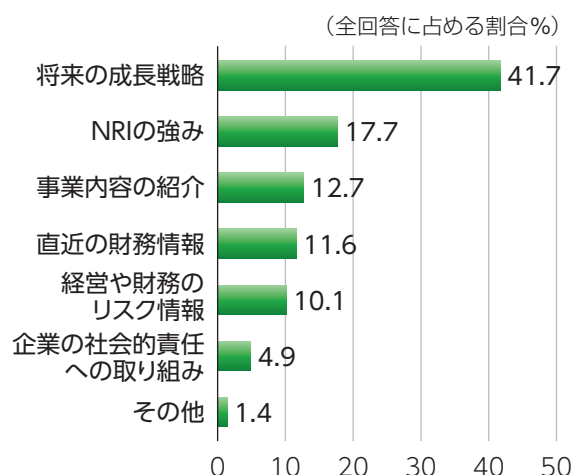
「NRIだより」にアンケートを同封し、株主の皆様のご意見をおうかがいしています。

「NRIだより2011年Vol.1」に同封したアンケートに多くのご返信をいただき、ありがとうございます。下記にご紹介した以外にも、業績や配当、未来創発フォーラムなどに関して多くのご意見・ご希望をいただきました。皆様のご期待にお応えできるよう、今後も努力してまいります。

### Q. NRIの株式購入にあたり、NRIのどこに魅力を感じて購入しましたか。



### Q. NRIだよりに掲載してほしいと思う内容をお聞かせください。



## 会社概要

会社名	株式会社野村総合研究所
英文社名	Nomura Research Institute, Ltd.
所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6番5号 丸の内北口ビル
沿革	1965年4月 株式会社野村総合研究所 (NRI) 設立 1966年1月 株式会社野村電子計算センター (NCC) 設立 1988年1月 両社が合併
資本金	186億円
代表者	代表取締役社長 嶋本 正
従業員数	5,810名/NRIグループ6,901名 (2011年6月30日現在)

## 株主メモ

- 株券電子化にともない、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100 株
公告方法	電子公告（当社ホームページ <a href="http://www.nri.co.jp/">http://www.nri.co.jp/</a> ） ただし、事故その他のやむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所  (連絡先・照会先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（通話料無料）